

資料7

令和4年度

取扱注意

モアシヨロ原野螺湾足寄停車場線
モアシヨロ原野地区の環境影響に関するワークショップ
(第2回)

令和5年3月10日(金)

北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部

1. 事業経過..... P2
2. 令和4年度第1回WS開催時 質問・意見について P7
3. 令和4年度道路事業報告及び
令和5年度道路事業計画(案) ... P15
4. 令和4年度環境調査報告及び
令和5年度環境調査計画(案)... P17
5. オンネット一地区道路環境保全会議について..... P57

1. 事業経過

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

1-1.事業経過 H26(2014)～R4(2022)

年	経緯
H26(2014).11.20	●平成26年9月の御嶽山噴火を受け、文部科学省地震火山部会において、 <u>雌阿寒岳</u> を含む9火山が重点的な観測・研究を行う火山に指定される。
H27(2015).5月	●「雌阿寒岳火山防災計画(平成27年度版)」が策定され、計画の中で当該路線が <u>噴火時の避難路</u> として位置づけられる。
H27(2015).7.28	●雌阿寒岳の火山性地震増加に伴い、噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)に引上げられる。 ※H27.11.13に噴火警戒レベル1に引下げ
H27(2015).12.22	●環境省中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会(第31回)において、阿寒国立公園事業の変更について答申がなされ、同公園区域内の <u>町道雌阿寒オンネット一線の有効幅員変更(3.5m→5.5m)</u> が認められる。 ●自然環境調査開始
H28(2016).3月	●町道雌阿寒オンネット一線が <u>道道に昇格</u> となり、道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の一部となる
H28(2016).6月	●第一回懇談会が開催される。
H29(2017).11月	●第一回ワークショップが開催される。
H30(2018).1月	●平成29年度公共事業(大規模等)事前評価地区に登録
H30(2018).6月	●「平成29年度政策評価(公共事業評価)」の評価結果「要望を行うことは妥当」
H30(2018).11月	●雌阿寒岳の火山性地震増加に伴い、噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)に引上げられる。 ※H30.12.21に噴火警戒レベル1に引下げ
R4(2022).12月 防災情報報告	●令和4年10月気象庁の報告「噴火警戒レベル1、噴火の兆候は認められない」 ●雌阿寒岳火山防災協議会で5月に登山ルート ¹ の安全確認や注意看板の設置を実施。

令和4年度 モアシヨロ原野螺湾足寄停車場線
モアシヨロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

1-1.事業経過 R5(2023)～

年	経緯
R5(2023).3月 防災情報報告	<ul style="list-style-type: none">●雌阿寒岳の火山活動状況説明●雌阿寒岳火山防災協議会:2月13日に勉強会(WEB開催)を実施。●雌阿寒岳火山防災協議会:2月20日に雌阿寒岳火山減災行動ワーキンググループを開催。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

1-2.自然環境調査及び懇談会・WS等開催経過：H27(2015)～H30(2018)

年度	内容	備考
H27 (2015)	自然環境調査	動植物調査、地表地質踏査、既存資料調査
H28 (2016)	第1回懇談会(6/17)	H29調査計画説明、現地視察
	自然環境調査(6月～2月)	哺乳類、爬虫類・両生類、昆虫類、魚介類、鳥類、景観
	第2回懇談会(3/17)	H28調査結果、H29調査計画説明
H29 (2017)	自然環境調査(5月～10月)	哺乳類、両生類、鳥類、植物(蘚苔類)、地質
	第1回懇談会(8/8)	H29調査結果、保全対策案説明、現地視察
	第1回WS(11/1)	H28、H29調査結果、保全対策案説明、現地視察
	第2回WS(3/30)	H29調査結果、道路設計説明、H30調査計画及び事業計画説明
H30 (2018)	自然環境調査(4月～9月)	鳥類、植物(地衣類を含む)
	WS現地視察(6/29)	植物方形区位置、ヒカリゴケ生育地、重要種移植検討対象種、外来種調査説明
	第1回WS(11/21)	H30調査結果、道路設計説明
	第2回WS(3/11)	H30調査結果・計画、前回WS質問意見等

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

1-2. 自然環境調査及び懇談会・WS等開催経過：R1(2019)～R4(2022)

年度	内容	備考
R1 (2019)	WS現地視察(9/10)	外来植物生育状況確認
	第1回WS(11/29)	R1調査結果、道路設計、R2調査計画、前回WS質問意見等
	第2回WS(3/16※)	R2事業・調査計画説明、前回WS質問意見等 ※新型コロナウイルス対応で資料を送付。
R2 (2020)	第1回WS(10/6)	R2調査結果(中間報告)、R2事業計画説明、前回WS質問意見等
	現地視察(11/5)	駆除対象外来種生育状況確認
	第2回WS(3/23)	R2調査結果・R3調査計画、R3事業計画
R3 (2021)	外来種駆除試験(7/21、8/21、9/29)	アメリカオニアザミ駆除試験
	第1回WS(11/5)※現地見学会を兼ねる	R3調査結果(中間報告)、R3事業計画説明、前回WS質問意見等 現地見学会：アメリカオニアザミ駆除試験地見学
	オンネトー地区道路環境保全会議準備会(第1回)(7/27)	設立趣旨説明、意見交換、現地見学 ※第2回準備会は1月に書面開催
	第2回WS(3/24)	R3調査結果・R4調査計画、R4事業計画
R4 (2022)	オンネトー地区道路環境保全会議(第1回)(6/14)	規約確認、R4活動計画、オオハンゴンソウ駆除、国立公園内道路法面見学
	WS現地視察(9/29)	オオハンゴンソウ駆除試験地、在来種播種試験地、溶岩地区、国立公園内道路法面視察
	第1回WS(12/1)	R4調査結果(中間報告)、R4事業経過説明、前回WS質問意見等
	オンネトー地区道路環境保全会議(第2回)(2/9)	経過説明、特別講演、活動計画

2. 令和4年度 第1回WS開催時 質問・意見について

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

令和4年度 第1回WS開催時(12月1日)質問・意見への対応等について①

	質問・意見	対応等	P
1	外来種(オオハンゴンソウ)駆除について	次第9「オンネット一地区道路環境保全会議について」の中で説明します。	-
2	外来種(アメリカオニアザミ)駆除について	道路建設時に道路区域内に生育しているものは処分を予定。	-
3	蘚苔類の希少な種類及び詳細な調査について	<p><希少な種類について> 特筆すべき種としては7種発見され、内2種は北海道初確認種ですが、ひがし大雪自然館の乙幡学芸員から「北海道における蘚苔類調査数や報告例が少なく、それらが全て重要という事ではない」とのコメントをいただいています。(H30.7.8聞取り)※特筆種7種についてはP10に記載</p> <p><詳細な調査について> 蘚苔類専門家のひがし大雪自然館の乙幡学芸員から「平成29年度に実施した調査で評価できると思う(H30.7.8聞取り)」と意見をいただいております、今後の調査は予定しておりません。</p>	P10 ~ P12
4	植物(国立公園指定種等)を含む生物多様性保全の観点での現道拡幅について	北海道及び国のレッドリスト記載種の生育箇所をできるだけ避けるとともに、螺湾川への影響を回避した線形となっている。	P13 ~ P17
5	道路法面への野芝(ノシバ)の導入について	次第8「環境調計画(植物)」の中で説明します。	-

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

令和4年度 第1回WS開催時(12月1日)質問・意見への対応等について②

	質問・意見	対応等	P
6	希少フクロウ類の調査について	キンメフクロウとシマフクロウ調査については、山本構成員からの助言を受けながら対応していきます。 ※第1回WS後の調査結果については鳥類調査結果で説明	-
7	工事後の鳥類の変化を検証できる調査について	工事後の鳥類の変化を検証できる調査として、予定ルート上のスポットセンサス実施を予定しています。 詳細は次第8「環境調査計画(鳥類)」の中で説明します。	-
8	溶岩区間の切土法面と盛土法面の植生工法について	溶岩区間の法面保護については、現在、繊維ネット工で検討しているが、昨年現地視察を踏まえ、改めて検討し今後のWSの中で説明していきます。	-
9	噴火レベルが2になった時の車両規制について	避難路整備後の車両規制については、今後、足寄町などの関係機関と協議していきます。	-
10	大型バスの乗り入れ制限について	大型バスの乗り入れ制限はありません。	-

質問・意見3 資料

蘚苔(センタイ)類調査結果

調査日:平成29年

6月26日、8月24～26日

蘚(セン)類:42属60種

苔(タイ)類:20属35種

<62属95種中、特筆すべき種*>

ホソバミズゴケ

ササキコオイゴケコヨツバゴケ

ウチワチョウジゴケ

ミヤマイクビゴケナガナギゴケ

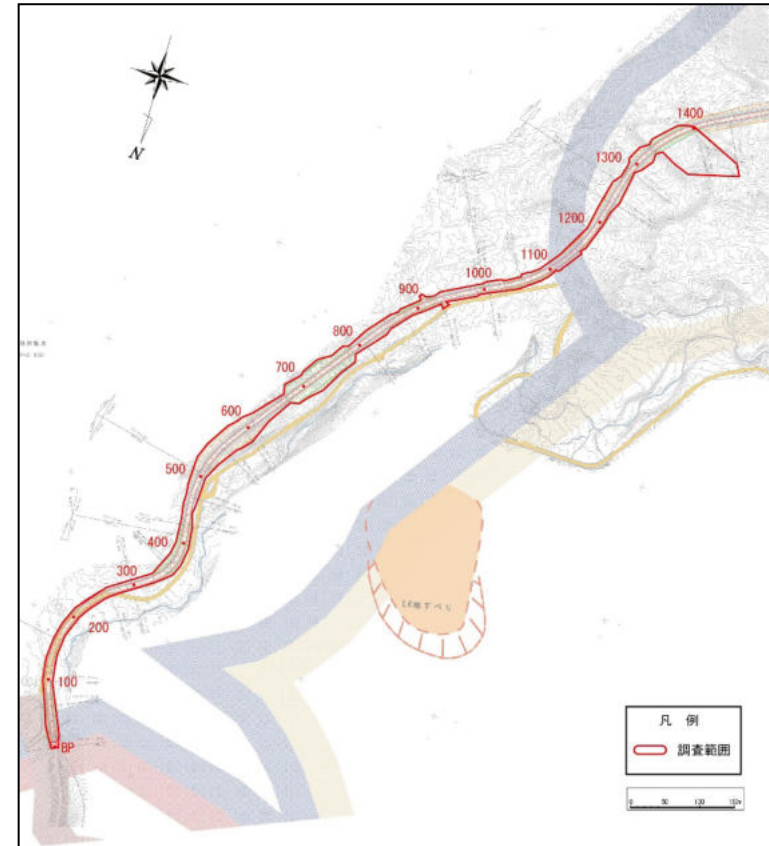
ツナミカマシッポゴケ

ナガナギゴケ

タツナミカマシッポゴケ

赤字:北海道初確認種

※H29 第2回WS(H30.3.16)資料より



蘚苔(センタイ)類調査範囲

特筆すべき種*:ここでは、北海道において初めて確認された種類や、報告例が少ない種類などで、日本のレッドデータブックには掲載されていない種を指します。

質問・意見4 資料

3.植物調査結果(地衣類) 36科 66属 142種を確認(重要種なし)



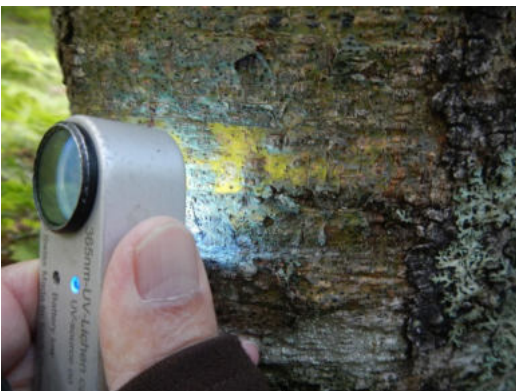
標本採取状況



標本採取状況



採取した地衣類



紫外線照射による種の判別



撮影状況



カブトゴケの一種

質問・意見4 資料

3.植物調査結果(地衣類):柏谷博之博士のコメント

(国立科学博物館 名誉研究員)

- ①これらの確認種は何れも北海道の低地帯に広く分布する種であり、基物による違いはあるものの調査地一帯に広く分布している。
- ②このため、工事によって一部の地衣類は消失するが、ある特定の種が絶滅するような事態は起こらないと考えられる。

※H30 第2回WS(H31.3.11)資料より

質問・意見5 資料

通過位置の検討

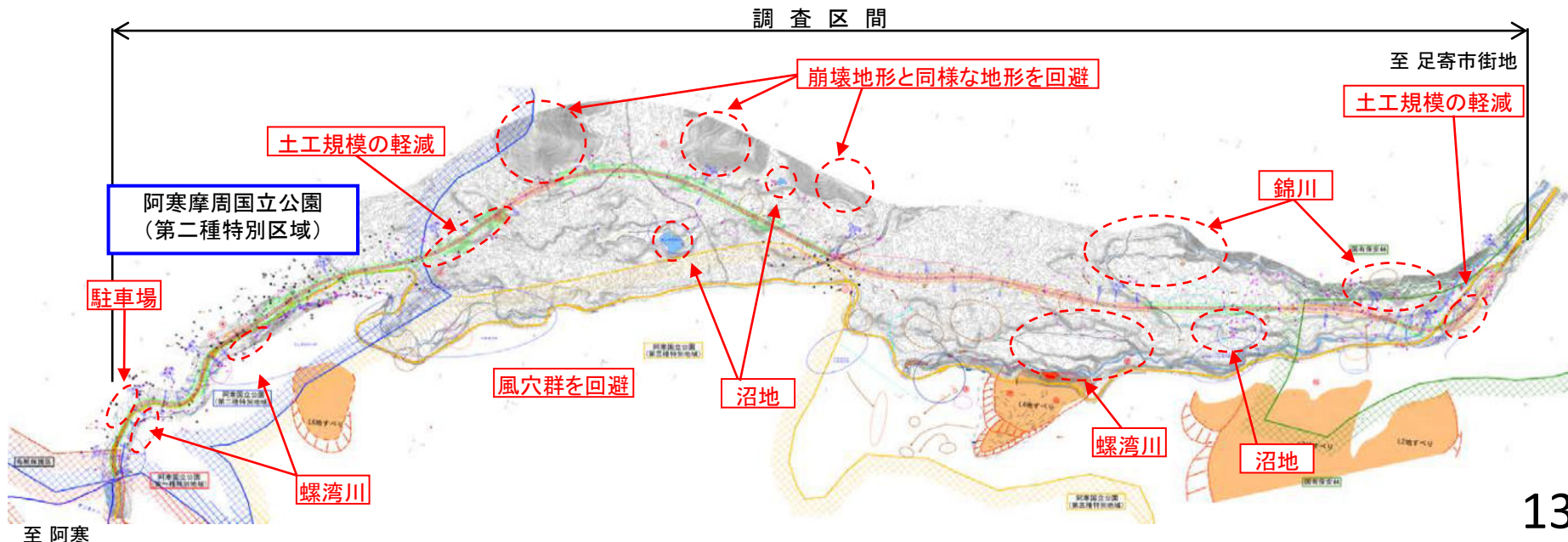
※H29 第1回WS(H29.11.1)資料より

道路設計におけるコントロールポイントの設定

・整理した留意事項をもとに、道路予備設計レベルのコントロールポイントを設定した。

CP

- ①大規模な切土・盛土を避けるとともに、工区内土工バランスを考慮
- ②風穴群を回避
- ③螺湾川や沼地への影響を回避
- ④崩壊地形の地質と同じ斜面から極力離隔を確保
- ⑤林道、現道、駐車場等の機能補償に配慮するとともに、極力支障を回避
- ⑥重要種(動物・植物)の確認範囲を極力回避



確認した国立公園指定種と重要種の対応表

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

確認した国立公園指定種と重要種の対応表

目名	科名	No.	種名	国立公園※1	重要種※3				
					文化財	種の保存	道条例	環境省RL	北海道RL
ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	1.	ヒメスギラン	○					
ハナヤスリ	ハナヤスリ	2.	ナツノハナワラビ	○					
ウラボシ	ナヨシダ	3.	ウサギシダ	○					
		4.	ヒメシダ	○					
	ヒメシダ	5.	ミヤマワラビ	○					
		6.	エゾメシダ	○					
		7.	オクヤマシダ	○					
		8.	エゾデンダ	○					
		9.	ハイマツ	○					
		10.	ミズバショウ	○					
マツ	マツ	9.	ハイマツ	○					
オモダカ	サトイモ	10.	ミズバショウ	○					
ユリ	シュロソウ	11.	オオバナノエンレイソウ	○					
		12.	シロバナエンレイソウ	○					
キジカクシ (クサスギカズラ)	ユリ	13.	クルマユリ	○					
		14.	ギンラン	○					
	ラン	15.	ササバギンラン	○					
		16.	イチヨウラン	○				Vu	
		17.	コイチヨウラン	○				En	
		18.	エゾスズラン	○					
		19.	オニノヤガラ	○					
		20.	ヒメミヤマウズラ	○					
		21.	アリドウシラン	○				R	
		22.	フタバラン	○				R	
		23.	エゾサカネラン	○				Cr	
		24.	コケイラン	○					
		25.	ヒトツバキソチドリ	○					
		26.	ヒメマイヅルソウ	○					
		イネ	ガンマ	27.	タマミクリ	○			
28.	ヒラギシスゲ			○					
29.	ホソバヒカゲスゲ			○					

※1 和名・学名および配列は、原則として「北海道維管束直物目録 松井・高橋 2015」による

※2 令和3年に改定された阿寒摩周国立公園指定植物

※3 重要種の選定基準 環境省RL「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 2017レッドリスト」

CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧種、DD: 情報不足
北海道RL「北海道の希少野生生物 北海道レッドリスト」(北海道 2001年～)

Cr: 絶滅危惧 I A類、En: 絶滅危惧 I B類、Vu: 絶滅危惧 II 類、Nt(R): 準絶滅危惧(希少種)、N: 留意、Dd: 情報不足

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

確認した国立公園指定種と重要種の対応表

目名	科名	No.	種名	国立公園※1	重要種※3				
					文化財	種の保存	道条例	環境省RL	北海道RL
イネ	カヤツリグサ	30.	アカンスゲ	○				EN	R
		31.	ウスイロスゲ	○					
		32.	イトヒクスゲ	○				VU	
キンポウゲ	イネ	33.	フォーリーガヤ	○				CR	
	メギ キンポウゲ	34.	ルイヨウボタン	○					
		35.	エゾレイジンソウ	○					
		36.	エゾトリカブト	○					
		37.	アカミノルイヨウショウマ	○					
		38.	ヒメイチゲ	○					
		39.	ミヤマハンショウヅル	○					
		40.	ミツバオウレン	○					
		41.	ハルカラマツ	○				VU	
		42.	エゾカラマツ	○					
		ユキノシタ	スグリ	43.	エゾスグリ	○			
44.	トガスグリ			○					
ユキノシタ	45.		マルバチャルメルソウ	○				VU	R
	46.		エゾクロクモソウ	○					
バラ	バラ	47.	フキユキノシタ	○					
		48.	エゾノシモツケソウ	○					
		49.	マルバシモツケ	○					
ブナ	カバノキ	50.	ホザキシモツケ	○					
		51.	ミヤマハンノキ	○					
キントラノオ	スミレ	52.	ウスバスミレ	○					
フウロソウ	フウロソウ	53.	イチゲフウロ	○					
ムクロジ	ムクロジ	54.	ミネカエデ	○					
		55.	オガラバナ	○					
		56.	クシロワチガイソウ	○				VU	Vu
ナデシコ	ナデシコ	57.	エゾフスマ	○					
		58.	エゾオオヤマハコベ	○					

※1 和名・学名および配列は、原則として「北海道維管束直物目録 松井・高橋 2015」による

※2 令和3年に改定された阿寒摩周国立公園指定植物

※3 重要種の選定基準 環境省RL「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 2017レッドリスト」

CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧種、DD: 情報不足
北海道RL「北海道の希少野生生物 北海道レッドリスト」(北海道 2001年～)

Cr: 絶滅危惧 I A類、En: 絶滅危惧 I B類、Vu: 絶滅危惧 II 類、Nt(R): 準絶滅危惧(希少種)、N: 留意、Dd: 情報不足

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

確認した国立公園指定種と重要種の対応表

目名	科名	No.	種名	国立公園※1	重要種※3				
					文化財	種の保存	道条例	環境省RL	北海道RL
ミズキ	ミズキ	59.	ゴゼンタチバナ	○					
ツツジ	サクラソウ	60.	ツマトリソウ	○					
		61.	クリンソウ	○					Vu
		62.	エゾオオサクラソウ	○					R
		63.	ウメガサソウ	○					
	ツツジ	64.	エゾウラジロハナヒリノキ	○					
		65.	ギンリョウソウ	○					
		66.	コイチャクソウ	○					
		67.	コバノイチャクソウ	○					
		68.	ジンヨウイチャクソウ	○					
		69.	ハクサンシャクナゲ	○					
		70.	エゾムラサキツツジ	○				VU	
		71.	イソツツジ	○					
		72.	クロウスゴ	○					
		73.	イワツツジ	○					
		74.	コケモモ	○					
リンドウ	アカネ	75.	ミヤマムグラ	○					
	リンドウ	76.	フデリンドウ	○					
シソ	シソ	77.	エゾタツナミソウ	○					
キク	キク	78.	エゾムカシヨモギ	○					
		79.	アキノキリンソウ	○					
マツムシソウ	スイカズラ	80.	リンネソウ	○					
		81.	エゾヒョウタンボク	○				VU	
		82.	ウコンウツギ	○					
22目	34科		82種	82種	0種	0種	0種	9種	10種
					16種				

※1 和名・学名および配列は、原則として「北海道維管束直物目録 松井・高橋 2015」による

※2 令和3年に改定された阿寒摩周国立公園指定植物

※3 重要種の選定基準 環境省RL 「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 2017レッドリスト」

CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 準絶滅危惧種、DD: 情報不足

北海道RL 「北海道の希少野生生物 北海道レッドリスト」(北海道 2001年～)

Cr: 絶滅危惧 I A類、En: 絶滅危惧 I B類、Vu: 絶滅危惧 II 類、Nt(R): 準絶滅危惧(希少種)、N:留意、Dd: 情報不足

国立公園指定種378種のうち82種を確認

3. 令和4年度 道路事業報告 及び
令和5年度 道路事業計画(案)

＜令和4年度道路事業報告＞

【用地測量】

令和4年12月 用地測量完了(国有林内)

【用地買収(民地の一部)】

令和4年10月 用地買収・立木補償完了(民地の一部)

＜令和5年度道路事業計画(案)＞

【用地買収】

令和5年7月 用地買収・立木補償(民地の一部)予定

4. 令和4年度 環境調査結果報告及び 令和5年度調査計画(案)

- 4-1.環境調査結果(鳥類)
- 4-2.環境調査結果(植物)

4-1.令和4年度 環境調査結果(鳥類)

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

調査内容：平成27年度～令和4年度

対象	調査方法	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4
鳥類相全般	文献調査	既往文献	—	—	—	—	—	—	—
	聞き取り調査	鳥類全般： 藤巻裕蔵氏 シマフクロウ： 早矢仕有子氏、 本田優子氏	懇談会実施						
	スポットセンサス	—	現道沿い・約5.3km 3回(6・10・2月 各月2日)	現道沿い・約5.3km 2回(4・5月 各月2日)	—	—	計画路線沿い ・約4.4km 1回(6月2日)	—	—
特定種 (クマガラ・ 希少猛禽類)	定点調査 (終日調査)	—	現道沿い ・3地点2回 (6・10月 各月2日)	現道沿い ・3地点2回 (4・5月 各月2日)	現道沿い ・3地点 4回(4～6・9月 各月3日)	現道沿い ・3地点 8回(4～11月 各月1日)	現道沿い・3地点 ^{※1} 8回(4～6・9月 各月 2日、7・8・10・11月 各月1日)	現道沿い・3地点 ^{※1} 8回(4～6・9月 各月 2日、7・8・10・11月 各月1日)	現道沿い・3地点 ^{※1} 8回(4～6・9月 各月 2日、7・8・10・11月 各月1日) ^{※2}
			H28・H29で1セット			—	—	—	—
特定種 (シマフクロウ)	定点調査 (夜間調査)	—	現道沿い・4地点 3回(6・10・2月 各月3日)	現道沿い・4地点 1回(6月 各3日)	—	—	—	—	現道沿い・4地点・2回 (4・5月・各月2日)、 現道沿い・1地点・1回 (3月3日) ^{※3}
特定種 (キンメフクロウ)	定点調査 (夜間調査)	—	—	—	—	—	—	—	現道沿い・4地点1回(4 月・2日)、 現道沿い・2地点・1回 (1月・各1日) ^{※4}
特定種 (シマフクロウ)	痕跡調査	—	水域沿い 2回(6・7月)	—	—	—	—	—	—
特定種 (クマガラ・ 希少猛禽類)	営巣木 調査	—	計画路線沿い・ 約4.4km1回(11月)	—	—	計画路線沿い ・約4.4km1回 (11月)	—	—	—
特定種 (シマフクロウ)	営巣可能木 調査	—	—	—	—	—	—	—	St.夜-4周辺 ・1回(5月)
特定種 (クマタカ)	営巣木 調査	—	—	—	—	—	St.3周辺 ・1回(11月)	—	—
特定種 (タンチョウ)	タンチョウ 営巣調査	—	—	—	—	—	—	SP2500北側の湿地 ・1回(5月)	(補足調査) ^{※2}

※1: St.2・St.3では、調査中に補足調査地点(SP1860・SP2410)に移動し、午前中2時間程度の調査を実施
 ※2: 終日調査実施時に、R3年度調査で営巣が確認された、タンチョウの補足確認を実施した。

※3: 冬季シマフクロウ夜間調査として3月下旬実施予定。
 ※4: 冬季キンメフクロウ調査として実施

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

令和4年度全体調査結果

- 本調査によって確認された鳥類は11目26科70種であった。
- 重要種としてエゾライチョウ、タンチョウ、ヤマシギ、オオジシギ、オジロワシ、オオワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ、オオコノハズク、シマフクロウ、キンメフクロウ、アオバズク、オオアカゲラ、クマガエラの6目6科16種を確認した。
- 本年度新規確認種はカワアイサ、オオコノハズク、シマフクロウ、キンメフクロウ、アオバズク2目2科5種であった。

表 鳥類調査による確認種(1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>				DD	Nt	留鳥	森林
2	カモ目	カモ科	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	●					留鳥	水辺
3	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>						夏鳥	森林・人里
4			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>						夏鳥	森林
5	ツル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>		特天	国内	VU	Vu	留鳥	水辺・草原
6	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>						夏鳥	森林
7			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>						夏鳥	森林
8	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>						夏鳥	森林
9			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>						夏鳥	海域
10	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>					N	夏鳥	森林
11			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>				NT	Nt	夏鳥	草原
12	タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>						留鳥	水辺・人里
13			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>		国天	国内	VU	Vu	留鳥	水辺
14			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>		国天	国内	VU	Vu	冬鳥	水辺
15			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>					Dd	夏(留)鳥	森林
16			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				NT	Nt	夏(留)鳥	森林
17			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>				NT	Nt	留(夏)鳥	森林
18			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>						留鳥	森林
19			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>			国内	EN	En	留鳥	森林
20	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	●				Nt	留鳥	人里
21			シマフクロウ	<i>Ketupa blakistoni</i>	●	国天	国内	CR	Cr	留鳥	森林

※ : 重要種 ※ ● : 確認種

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

表 鳥類調査による確認種(2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
22	フクロウ目	フクロウ科	キンメフクロウ	<i>Aegolius funereus</i>	●			CR	Cr	冬(留)鳥	森林
23			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	●				Dd	夏鳥	森林
24	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>						留鳥	森林
25			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>					Dd	留鳥	森林
26			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>						留鳥	森林
			アカゲラ属	<i>Dendrocopos sp.</i>						-	-
27			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>		国天		VU	Vu	留鳥	森林
28			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>						留鳥	森林
29	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>						夏鳥	森林
30		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>						留鳥	森林
31			ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>						留鳥	森林
32			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>						留鳥	人里
33			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>						留鳥	森林・人里
			カラス属	<i>Corvus sp.</i>						-	-
34		キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>						留鳥	森林
35		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>						留鳥	森林
36			コガラ	<i>Poecile montanus</i>						留鳥	森林
37			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>						留鳥	森林
38			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>						留鳥	森林
39			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>						留鳥	森林・人里
40		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>						留鳥	森林・人里
41		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>						夏鳥	森林
42		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>						留鳥	森林
43		ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>						夏鳥	森林
44			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>						夏鳥	森林
45		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>						留鳥	森林
46		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>						留鳥	森林
47		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>						留鳥	森林
48		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>						留鳥	水辺
49		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>						夏鳥	森林
50			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>						夏鳥	森林
51			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>						冬鳥	森林・人里

※ :重要種 ※ :科または属までの同定にとどまっており、種数の計数から除外した種。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

表 鳥類調査による確認種(3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
52	スズメ目	ヒタキ科	コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>						夏鳥	森林
53			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>						夏鳥	森林
54			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>						夏鳥	森林
55			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>						夏鳥	草原
56			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>						夏鳥	森林
57			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>						夏鳥	森林
58			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						夏鳥	森林
59		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>						夏鳥	水辺
60			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>						夏(留)鳥	水辺・人里
61			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>						夏鳥	森林・草原
62		アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>						冬鳥	森林
63			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>						夏鳥	草原・森林・人里
64			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>						留鳥	森林
65			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>						夏鳥	森林・草原
66			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>						留鳥	森林
67			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>						夏(留)鳥	森林
68			イカル	<i>Eophona personata</i>						夏鳥	森林
69		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>						夏鳥	草原
70			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>						夏鳥	草原・森林・人里
合計	11目	26科	70種		5種	5種	5種	11種	16種	-	-



エゾライチョウ



オオアカゲラ



クマゲラ

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

タンチョウ補足調査結果

- 4月21日の補足調査で就巣を確認
- 5・6月で幼鳥2羽を確認
- 7月以降の幼鳥確認はなし。幼鳥死亡などによる繁殖失敗と考えられる。

区分	調査日	確認個体数		調査結果概要
		成鳥	幼鳥	
補足調査 (終日調査時)	4月21・22日	2個体	-	・成鳥1個体の就巣を確認
	5月24・25日	2個体	2個体	・成鳥、幼鳥ともに採餌しているのを確認 (5/25)
	6月21日	2個体	2個体	・成鳥、幼鳥ともに採餌しているのを確認
	7月13日	-	-	・確認なし
	8月19日	2個体	-	・成鳥の採餌及び鳴き交わしを確認
	9月13・14日	2個体	-	・成鳥の採餌を確認
	10月15日	2個体	-	・成鳥の採餌を確認
	11月15日	-	-	・確認なし

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和5年度
環境調査(鳥類)計画(案)

令和4年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第2回ワークショップ

令和5年度調査計画(案): 鳥類

➤ 調査計画(案)として終日調査(4~6、9月)およびスポットセンサス調査(6月)を立案した。

調査年度	調査方法	延べ日数		確認種数		クマゲラ 確認例数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
R5	終日	12日	14日	(H28~R4 総確認種数 97種)				3日	3日	3日			3日										
	スポットセンサス	2日							2日	※フクロウ類については、3月の冬季シマフクロウ調査結果により追加調査の実施を検討する。													
R4	終日	12日		64種		63例		2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日								
	夜間	4日		9種		2例		2日	2日														
	営巢可能木	2日	23日	0種	70種	0例	65例		2日														
	冬季キンメヅク	2日		10種		0例											2日						
	冬季シマフクロウ夜間	3日																	3日				
R3	終日	12日	13日	73種	74種	56例	56例	2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日								
	クマゲラ営巢	1日		1種		0例			1日														
R2	終日	12日		64種		36例		2日	2日	2日	1日	1日	2日	1日	1日								
	スポットセンサス	2日	16日	44種	66種	5例	44例			2日	※クマゲラのヒナの声が聞こえる6月の上旬及び中旬(計2回)に、計画路線沿いのスポットセンサスをしながらクマゲラの繁殖確認に努める												
	営巢木	2日		5種		3例												2日					
H31 (R1)	終日	8日	10日	57種	57種	18例	19例	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日								
	営巢木	2日		4種		1例														2日			
H30	終日	12日		64種		45例		3日	3日	3日			3日										
H29	終日	4日		58種	76種 夜間などその他調査含む	14例	36例	2日	2日														
	スポットセンサス	4日		44種		4例		2日	2日														
	夜間	3日		24種		0例				3日													
H28	終日	4日	37日	51種		9例				2日				2日									
	スポットセンサス	6日		47種		4例						2日				2日				2日			
	夜間	9日		31種		2例						3日				3日					3日		
	痕跡(シマフクロウ)	5日		0種		0例						3日		2日									
	営巢木	2日		4種		3例													2日				

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

4-2.令和4年度 環境調査結果(植物)

令和4年度 植物調査内容

関連する過年度の植物調査

R2年度

- ・既設道路法面の在来種生育状況調査
➡法面緑化候補種を15種選定し、うち14種の種子を採取
- ・採取種子の発芽調査➡13種の発芽を確認

R3年度

- ・在来種導入候補種の賦存量調査
➡導入候補種5種※を選定
- ・外来種侵入状況調査
➡外来種22種の侵入、アメリカオニアザミの増加を確認

※<草本>クサヨシ、オオヨモギ、アキタブキ
<木本>ホザキナナカマド、ホザキシモツケ

今年度の植物調査

現地調査完了

1. 外来種侵入状況調査(R3から継続)

2. 在来種の現地播種調査(R3選定の導入候補種のうち草本3種)

1. 外来種侵入状況調査【方法】

侵入外来種の確認(6月、8月、9月)

- ・令和2年夏季に伐採した民地(既伐採範囲)を踏査し、改変直後に侵入する外来種を記録

群落組成調査(6月、8月、9月)

- ・既伐採範囲に5m×5mの調査区を設定

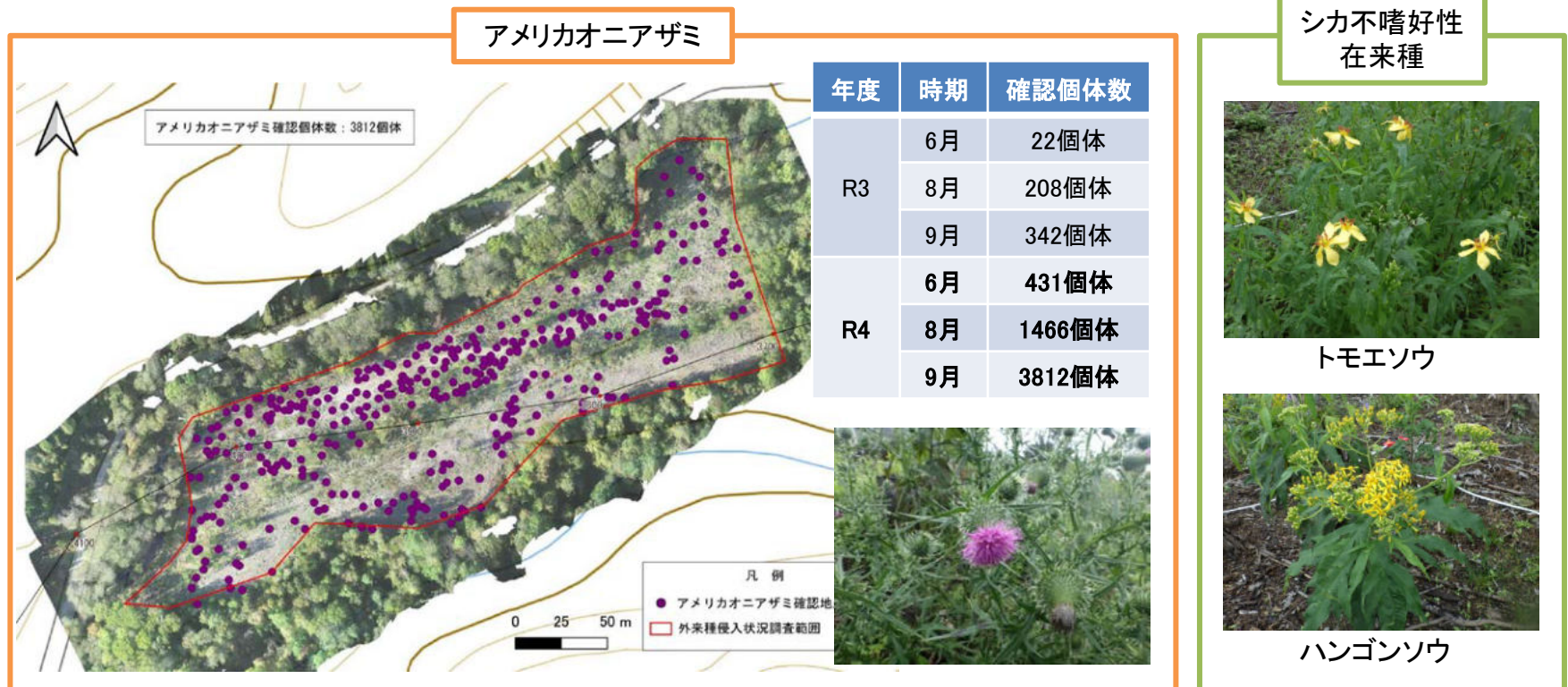
- ・ブラウン-ブランケの全推定法※で侵入した外来種を含む全種の被度・群度を確認

※被度・群度により植物群落の状態を知る方法

被 度		群 度	
5	被度がコドラート面積の3/4以上を占めているもの	5	調査区内にカーペット状に一面に生育しているもの
4	被度がコドラート面積の1/2～3/4を占めているもの	4	大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴があいているような状態のもの
3	被度がコドラート面積の1/4～1/2を占めているもの	3	小群のまだら状のもの
2	個体数が極めて多いか、または少なくとも被度が1/10～1/4を占めているもの	2	小群をなしているもの
1	個体数は多いが、被度が1/20以下、または被度が1/10以下で個体数が少ないもの	1	単独で生えているもの
+	個体数も少なく、被度も少ないもの		

1. 外来種侵入状況調査【結果】

- ・外来種23種の侵入を確認
- ・外来種数の大きな増加傾向なし(昨年度からの種の入替わりあり)
- ・昨年度に続き、アメリカオニアザミの著しい増加を確認
- ・シカ不嗜好性の在来種(トモエソウ、ハンゴンソウ)で被度・群度が高い傾向あり



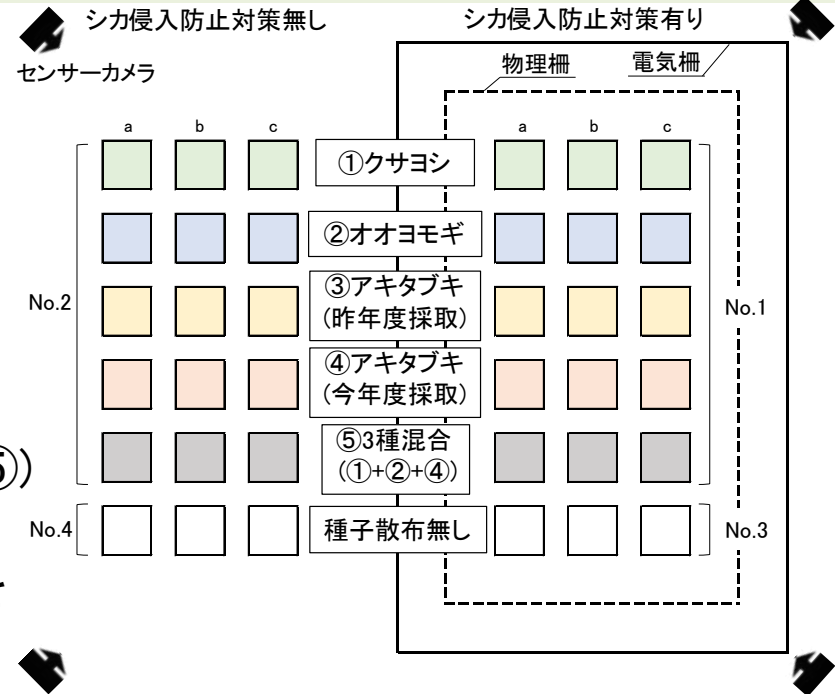
2. 在来種の現地播種調査【方法】

試験区の設定 (6月)

- 4パターンの試験区を設定(No.1~4)

試験区	内容
No.1	種子散布-有・シカ侵入防止対策-有
No.2	種子散布-有・シカ侵入防止対策-無
No.3	種子散布-無・シカ侵入防止対策-有
No.4	種子散布-無・シカ侵入防止対策-無

- 種子散布の組み合わせは5通り(①~⑤)
※導入候補種のうち草本3種の種子を使用
- 種子散布工を想定して吹付材に種子を混ぜ込み、1m×1mに厚さ1cmで敷設

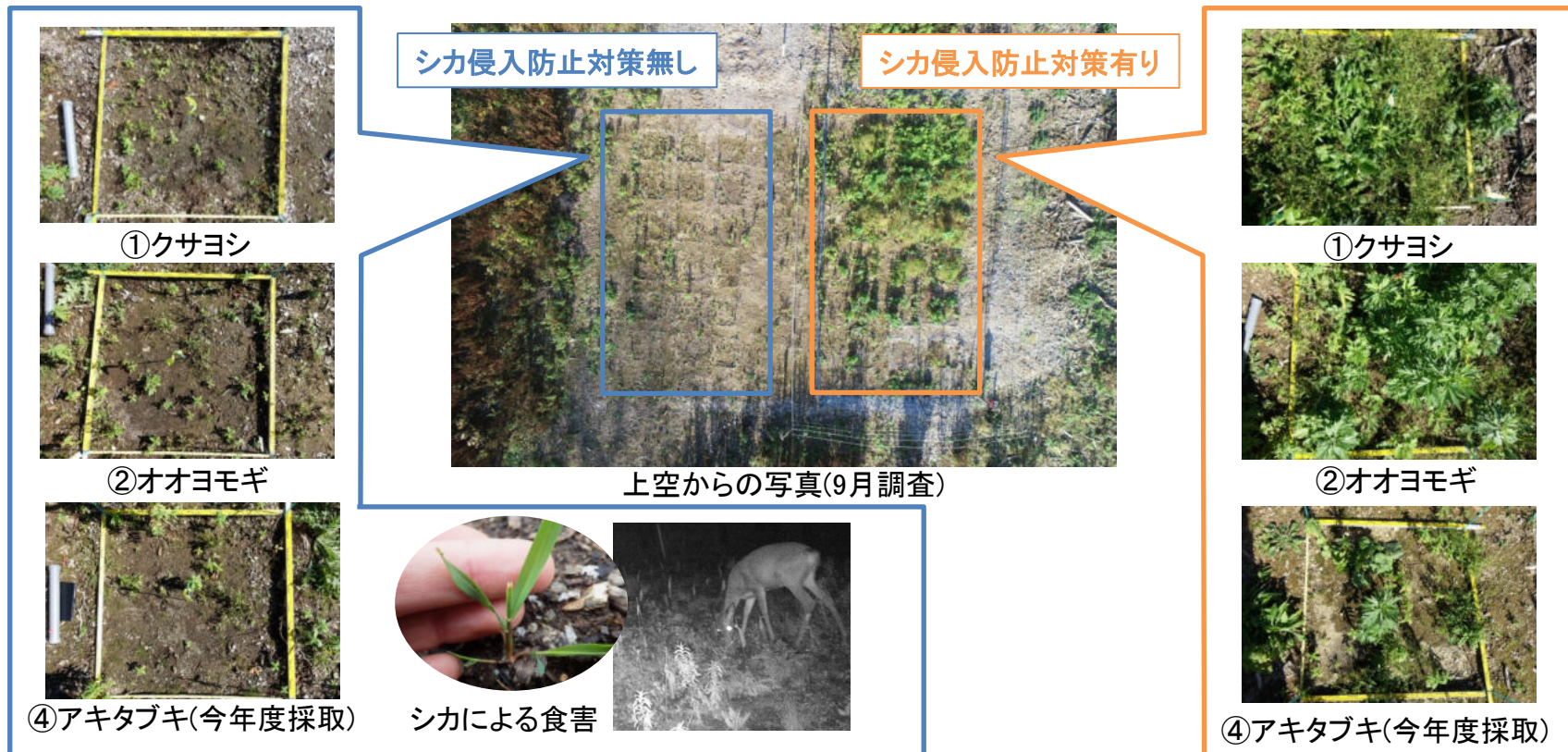


発芽・生育状況の確認 (8月、9月)

- 写真撮影、全種^{※1}の植被率(%)、対象種^{※2}の個体数・被度を記録
 ※1 全種=各コドラートに播種した種+自然侵入した種
 ※2 対象種=各コドラートに播種した種
- 各区画に設置したセンサーカメラでエゾシカの行動を確認

2. 在来種の現地播種調査【結果】

- ・対象3種のみでは、コドラート全体を覆うほど植生が回復しなかった
- ・対象3種では、被度がオオヨモギで最も高く、個体数がクサヨシで最も多かった
- ・アキタブキは被度・個体数が低く、出現しないコドラートも多かった
- ・シカ侵入防止対策無しでは食害により、全種の植被率と対象種の被度が低く、対象種の個体数が少なかった



2. 在来種の現地播種調査【結果】

- ・導入候補種の個体数は、全試験パターンで発生期待本数を下回った
- ・全種の植被率は、シカ侵入防止対策有りのクサヨシ、オオヨモギ、アキタブキ(昨年度採取)で判定「可」の目安を上回った: □

試験パターン	導入候補種の個体数(本/m ²)				全種の植被率(%)				
	発生期待 本数 ^{※1} (本/m ²)	9月調査結果			9月調査結果			判定「可」 目安 ^{※2}	
		シカ侵入防止対策		全体	シカ侵入防止対策		全体		
		無し	有り		無し	有り			
①クサヨシ	500	29.0	49.7	39.3	11	95	53	70~80	
②オオヨモギ	200	11.0	36.7	23.8	10	87	48		
③アキタブキ (昨年度採取)	200	0.3	0.7	0.5	9	87	48		
④アキタブキ (今年度採取)	200	0.3	3.3	1.8	9	50	30		
⑤ 3 種 混 合	クサヨシ	167	16.3	21.3	18.8	12	50		31
	オオヨモギ	67	6.0	16.0	11.0				
	アキタブキ (今年度採取)	67	0.0	0.0	0.0				
種子散布無し	—	—	—	—	7	16	11		

※1 R3年度業務で必要播種量の計算に用いた値

※2 「道路土工 切土工・斜面安定工指針(平成21年度版)」の成績判定の目安